

「カーボンニュートラル50に向けて：第6次エネルギー基本計画(素案)の実現性を問う」をテーマとして、奈良林 直氏(東工大) および森下和功氏(京大、当会理事)を共同司会にして総合討論が行われた。

まず、司会の森下和功氏から総合討論の趣旨説明と総合討論の進め方の展望があった。

森下和功氏は、第6次エネルギー基本計画には、①再エネの主力電源化、②原子力は現状維持、③2030年の目標は46%削減、2050年でカーボンニュートラルを実現する、の3つのポイントが計画の実現性の上で議論となり、それぞれについて下表に示す問題点があると述べた。

①再エネの主力電源化	
	設備導入(太陽光, 風力, 水素, 等々)の達成度
	イノベーション, 投資, 企業価値
	調整電源, 蓄電池・火力
	燃料調達, CCUS
②原子力は現状維持	
	新設, 増設を盛り込まず
③2030年の目標は46%削減, 2050年でカーボンニュートラル実現	
	達成の見込み
	技術的課題
	社会的課題
	カーボンニュートラルと日本の経済発展

そこで総合討論に参加される皆さんに 次の3点に注意して議論を展開してもらいたいと案内した。

- (1) 再エネ主力電源化は可能か?
- (2) 原子力発電技術は今後どうするのか?
- (3) この脱炭素化方針は我が国にとって有益か?

なお総合討論では、第6次エネルギー基本計画の政府審議に委員として加わった橋川先生と、原子力の再稼働に影響を及ぼしている社会的要因としての原子力裁判のあり方を研究されている堀池先生の2名に話題提供をお願いしたが、お二人にはそれぞれ20分程度、話題提供をいただくとの案内があった。